

NIPPON

かわら版

55号

日本製紙

発行所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地 千101-0062 日本製紙株式会社新聞営業本部 電話 03-6665-1030 FAX 03-6665-0319 www.nipponpapergroup.com/newsprint@nipponpapergroup.com ©日本製紙株式会社2014

新春 トップインタビュー

日本製紙株式会社
代表取締役社長 芳賀義雄

2014年新年号のトップインタビューは日本製紙株式会社代表取締役社長、芳賀義雄の登場です。昨年3月に本社移転、4月に日本製紙グループ本社と日本製紙が合併し、名実ともに日本製紙が新たにスタートしました。世の中が大きく変化する状況の中、新生「日本製紙」としてどのように経営の舵を取っていくのか、思いを語って頂きました。

(インタビューアー かわら版NIPPON編集長 佐藤 貴光 中村大祐)



年頭にあたり新聞社の皆様へ一言申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。日頃より新聞社の皆様には大変お世話になっており、心より感謝申し上げます。昨年、皆様とは多くの有意義な時間を共有し、訪問させて頂いた際には温かい歓待を頂きまして誠にありがとうございました。

今年も多くのお客様の元に伺い、様々なお話が出来ればと思っていますのでよろしくお願致します。そして、本年も日本製紙の新聞営業部員と共に総力を上げ、新聞用紙の供給に尽力する所存でございますので、ご指導の程よろしくお願申し上げます。

2013年を振り返っていかがでしたでしょうか。

昨年、3月に当社グループを御茶ノ水ソラシティの新社屋に移転、4月には日本製紙グループ本社と日本製紙が合併し、新生「日本製紙」としてのスタートを切りました。その中で当社は“総合バイオマス企業”への構造転換に向けた取り組みを進めてまいりましたが、エネルギー事業・セルロースナノファイバー(CNF)事業を中心に、着実に歩みを進めた1年であったと言えます。

また、主力事業である洋紙事業の収益力回復に向けて、「力強い営業力と力強い生産現場」というテーマを掲げました。営業面では組織再編を行い販売体制の見直しを図り、販売力強化とシェア確保に努めて来ました。生産面では、一昨年より取り組んで来た洋紙事業の復興計画が着実に進み、工場はほぼフル生産の状態となり、稼働率の向上につながりました。販売

力・コスト両面での競争力強化が出来たと思っています。

総合バイオマス企業に向けて具体的な取り組み状況をお聞かせください。

エネルギー事業については、3つの事業化に向けた展開を図ることが出来、思いの外進捗したと感じています。1つ目は太陽光発電事業で、徳島県小松島市に所有する社有地の一部と、大竹工場の敷地の一部



CNF各種サンプル

を有効活用し、太陽光発電設備の設置に取り掛かりました。再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)を利用し、今年中には電力会社に販売を行っていく予定です。2つ目はバイオマス発電事業で、八代工場に木質バイオマス発電設備を新設し、2015年春から事業開始することを決定しました。燃料に九州地区の間伐材などの未利用材を100%使用することを特徴としています。こちらもFITを利用した販売を行っていく予定です。そして3つ目は火力発電事業で、富士工場鈴川の敷地に10万キロワット級の石炭火力発電設備を建設・運営する発電事業会社を三菱商事、中部電力と合弁で設立しました。発電設備の運転及び点検は当社で行い、ダイヤモンドパワー社に販売を行っていく予定です。

将来的には新電力(PPS)として小売りにも参入する

ことで、事業の柱に育てていければと思っています。そのために発電量と消費量をバランスさせるための仕組み作りなど、時間をかけて行っていく必要があると考えています。

CNF事業については、岩国工場に実証生産設備の設置工事を完了し、運転を開始しました。現在順調に稼働しており、様々な会社からサンプル提供の依頼を頂いています。将来的にどういった分野で活用出来るか

は第四次中期経営計画の最終年度となります。第五次中期経営計画で描く成長戦略へのステップとなる大事な1年です。

まずは、事業構造転換に向けた取り組み強化に向けて、人・物・金という経営資源を有効に活用しながら、事業を展開させて行くことが必要です。それから、当社の主力事業である洋紙事業の強化も行っていく必要があります。市況の安定を図ることと、生産面における安全、設備、環境を、原点に立ち返って見直していく必要があると考えています。

また震災で悪化した財務基盤を回復すべく、D/Eレシオ比率の目標を掲げましたが、こちらは今年度末には達成可能と見ております。

新聞用紙事業の今後をどのように考えていますか？

新聞は文字を通じて経済、政治状況などを世の中に対して発信出来る非常に重要なツールです。新聞が紙メディアとしての社会に果たす役割は大きく、新聞の社会的価値は今なお非常に高いものであります。インターネットの影響や、若年層の購読率低下という状況がありますが、そのような逆風下においても新聞社の皆様は相当な努力によって収益を確保されています。同じ経営者として心から敬意を表します。

社長として海外を訪問することも多いのですが、日本の新聞の良さは宅配制度

と、印面品質、そしてカラフルな紙面構成であると感じています。そういった新聞の魅力が次世代の人達にも引き継がれていくことを願ってやみません。我々もメーカーの立場から、新聞発行を支えるという強い意志を常に持ち続けていきたいと考えています。

また、当社の強みである全国に工場が立地している点を生かして、古紙の安定確保にも取り組んでいきたいと思っています。現在一部の新聞社様では、販売店が古紙回収を行い、それを当社工場に戻し、再び新聞用紙の原料として活用するといった「クローズドループ」が行われています。こういった取り組みを通じて、原材料の安定調達を図り、そして用紙の安定供給、安定品質という極めて重要な責務を果たして参りたいと思っています。

最後に、新聞営業部員へのメッセージをお願いします。

私が新聞社の皆様を訪問した際には、忌憚なく意見交換をさせて頂いておりますが、それは当社新聞営業部員が普段築いているお客様との信頼関係があってこそ成り立つものです。

第1に、お客様の声をしっかりと拾い上げ、そしてお客様の信頼を勝ち得ることに今後もぜひ注力してください。また営業と技術部門が一体となって、供給・品質両面でお客様に安心して頂けるよう精進して欲しいと思います。



総合バイオマスに向けた取組内容
エネルギー

事業名	事業所	発電規模	発電開始時期	売電先
太陽光発電事業	小松島	2.1万kW	2014年後半	四国電力
	大竹	826kW	2014年2月(予定)	中国電力
バイオマス発電事業	八代	5千kW	2015年3月(予定)	九州電力
火力発電事業	富士	10万kW	2016年5月(予定)	ダイヤモンドパワー社

CNF

事業名	事業所	生産量	運転開始時期	備考
CNF事業(実証稼働)	岩国	30トン/年	2013年10月	CNF量産化に向けた技術開発・用途開発を目指す



新聞との長いお付き合い

新聞営業本部長代理
兼新聞営業部長

あら いっしょう
荒 一尚

を覚えてくださっているお客様がいらっしゃるのは大変うれしい限りです。

活字文化の継承に お役に立ちたい

新聞に代表される活字文化は社会になくはならないものと考えております。新聞社の皆様が長きにわたりその文化を紡いでおられる歴史の重さを、この数カ月間様々なお客様にお会いし強く感じました。製紙業に身を置くものとして、その責務に携われることは大変光栄であり、幸せです。また新聞社様との関係においても長く深い歴史がございます。現在頂戴しているお取引は一朝一夕に出来たものではなく、長い時間をかけて築き上げられたものです。この貴重な関係は本当に大切にしなければならぬと考えています。

新聞は編集・印刷・諸資材メーカーが三位一体となって初めて商品が出来、読者に読んでもらうことで初めて社会的価値が創出されます。インターネットの影響、若者の活字離れなど厳しい事業環境にあります。活字文化を絶やさないために今何をすべきかを、共存共栄という新聞紙販売の基本理念に立ち

返り、メーカーの立場からしっかり考えて行きたいと思えます。供給面以外にも、新聞社の皆様のお役に立てることはあるのではないかと感じています。

用紙メーカーの 三原則を忠実に

新聞用紙メーカーとしての三原則は「安定納入・安定品質・安定コスト」であると考えております。安定納入が最初に来ておりますが、これは決して「ものを揃えさせれば良い」という訳ではありません。言うまでもなく、用紙は新聞社様にとって最も重要な基礎資材です。白紙の新聞用紙には何ら社会的価値がありませんが、活字が印刷されることによって社会的影響力と社会的価値が生み出されます。新聞という商品の価値を下げてしまうような紙は絶対にあってはならないと、思いを新たにしています。言い換えれば、安定品質は安定納入という言葉に内

包されていると言えます。コストについては、新聞社、用紙メーカー双方の側で日々進化していくものと思えますが、用紙メーカーの立場であらためて総点検していくつもりです。残念ながら新聞用紙の主要原材料については、中国を含めた海外市況の影響を受ける状況となっております。そうした環境で、いかにコストを抑えていくか、これまでの概念を超え総合的に検証して行きたいと考えております。

Inspire the next !

座右の銘ではありませんが、Inspire the next ! という言葉を常に胸に抱いています。これからも新聞用紙という素材にかかわるものとしての責任と自覚を持ち、日々の業務に取り組んで参る所存でございます。今後とも末長いお付き合い、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

優良配達員として表彰

昭和34年、相馬野馬追で知られる福島県相馬市に生まれました。昨年8月より新聞用紙の販売に携わることとなりましたが、思い起こせば新聞とのかかわりは小学校時代にさかのぼります。私は小二から中学までの6年間新聞配達をしており、宅配制度を支える立場で新聞業界とのかかわりを持っていました。優良配達員として表彰され新聞に写真を掲載して頂いたこともあり、常に新聞を身近なものと感じながら少年時代を過ごしました。

昭和56年に十条製紙に入社し、初任地が釧路工場となりました。当時は赴任地まで電車移動が基本で、釧路まで電車と青函連絡船を乗り継ぎ、25時間掛けて

移動したことを覚えております。釧路工場は当時も新聞用紙の基幹工場であり、入社して最初に触れた紙が新聞用紙でしたので、新聞用紙と抄紙機には大変深い思い入れがあります。

その後は洋紙の営業部門を中心に、更紙や中下級紙からアート紙まで多種多様な品種を扱いました。お取引先についても、出版社、卸商など幅広い業態の方々とお取引させて頂きました。当時は、新聞社様へ販売する一般洋紙を洋紙部門で扱っており、新聞社の方々とのお付き合いもございました。また、伏木工場製品課勤務時代、営業支社勤務時代(中部・九州)、その時々で新聞用紙にかかわって参りました。部長として挨拶させて頂く際に、当時のこと



ひじりばなし

御茶ノ水に引越し10カ月が経過した。「住み心地は？」「快適です」と答えている。◆西側には国の重要文化財であるニコライ堂。緑青のビザンティン様式のドームは絵心くすぐるようで多くの写真家がスケッチに訪れる。北側は、澄み切った日には関東平野の先に筑波の稜線を望み、眼下には御茶ノ水駅。中央線・総武線に丸ノ内線がトンネルから地上に姿を現し、交差する様はまるでブラレールのよう。鉄道マニアには堪らない。◆美しいアーチを描く聖橋を渡れば湯島聖堂に江戸総鎮守の神田明神。ご利益がありそうだ。活字文化の発展を祈ろう。

東側には世界的観光地・電気とアニメの街アキバがすぐそこ。「ご主人様お帰りなさい」の言葉に新たな自分を発見した部員もいる。◆南側は…窓が無い。一面ソーラーパネルだ。このビルは太陽光パネルの導入、地下鉄湧出水を空調熱源にした未利用エネルギーの活用など最先端の技術に基づく環境性能が高く評価され、グリーンビルディング認証(日本政策投資銀行)において最高レベルの認証を得た。最先端技術と環境の融合。快適なわけだ！ぜひ一度、御茶ノ水へお越しください。

谷口 哲章

第55回 九州新聞用紙品質会議

新聞輪転による新規媒体に関心



概要

今回55回の節目となる九州新聞用紙品質会議は、鹿児島市与次郎に本社を構えられる南日本新聞社様に開催。錦江湾を望む海岸線に位置し、桜島が一望出来、自然豊かな景観が魅力的な社屋です。当日は薄曇りで、はっきりと桜島を眺望出来ませんでしたが、噴火が起こった際は、「いかにも鹿児島」という景色が繰り広げられるとのことでした。

会議内容

議事に先立ち坂口専務取締役様から、昨今の新聞を取り巻く厳しい現状と、これを打破するため新聞社のみならず資材を含めた総力で努力することが必要とご挨拶頂き、会議が始まりました。本年の議題は、「輪転機折り機部分で発

生するトラブルについて」です。輪転機メーカーや印刷条件は違いますが、基本的な構造は類似しているため、各社で懸案されているトラブルについての助言や、実際に行われたトラブル対策の説明など活発に意見が交わされました。当社も、今回の会議で折り機の知識が深まり、今後の業務や対策にも生かせる項目もあり、技術面においても大いに勉強させて頂きました。

次に、八代工場製品に対して各社の使用状況、改善要望などについて、各新聞社印刷担当者様から発表頂きました。品質要望として、今年も見当ズレに関する内容が多く、各社でのご尽力や機械の進歩により、以前に比べ損紙率は低下しているものの、更なる損紙率削減や作業負荷軽減への要望が高いことを痛感しました。

さらに、昨年のトピックとして、佐賀新聞社様のご協力で実施した新聞輪転による新規媒体検討の発表を行いました。通常新聞輪転では、SL新聞や高白新聞など中下級紙の印刷を行います。しかし上質紙や情報用紙が可能であれば、広告営業に今より幅広い可能性が出て来ると考え、佐賀新聞社様にお願いし、まずは八代工場で生産しているコピー用紙(PPC用紙)での印刷の可否について検討を行いました。残念ながら、今回のテストでは印刷条件が合わずシワが発生し、奇



南日本新聞社
坂口専務取締役

麗な印刷物とはなりません。しかし懸念されていた引きずり汚れが比較的少ないなど、これまでと違った知見も得ることが出来ました。また、参加者からも、これまで行ったことの無かったテスト内容であったため、説明後には当方が考えていた以上に活発な質疑応答があり、大きな関心を頂きました。

次回の開催

今回は、熊本での開催を予定しています。毎回幹事会社様には、ご多忙にもかかわらず協力を頂き心より感謝しております。会議で得られる各新聞社様からの貴重なご意見を当社は品質向上と安定供給に結びつける場と考えています。今後共ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

また、最後となりますが、ご尽力頂きました南日本新聞社様に厚くお礼申し上げます。

開催日/2013年11月7日(木)~8日(金)
参加社(50音順)/大分合同新聞社、沖縄タイムス社、熊本日日新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、南日本新聞社
(新聞社23名、当社16名、計39名)

第6回 東北・新潟新聞用紙品質会議

損紙率は安定稼働のバロメータ

山形県にて第6回新聞用紙品質会議を開催

山形新聞社様(山新オフセット様)を会場に、東北、新潟の新聞社様から23名、当社23名、総勢46名にて「第6回東北・新潟新聞用紙品質会議」を開催しました。

会議は主催者を代表して、石巻兼岩沼工場長/藤崎の挨拶で開幕、続いて幹事会社山形新聞社専務取締役/朝井様より「新聞用紙は安定供給と品質の安定で問題なく使用出来ていると思うが、シワや汚れ、見当ズレなどを無くし、更なる損紙削減に期待しているところです。損紙率は安定稼働のバロメータでもあります。会議では広範囲な話を出し合って、より良い成果が得られるように導き出して欲しい。」とご挨拶を頂き会議が始まりました。

新聞社及び当社からの発表

当社新聞営業本部長代理/荒より「古紙を取り巻く環境と当社の対応」と題し、国内古紙の回収率と利用率、国内古紙の輸出量と古紙価格の

推移、価格高騰の要因について説明を行いました。当社の取り組みとして、古紙調達力を高める方法の1つとしてクロズドループリサイクルの展開、省資源への取り組みとして減斤紙への切り替えについて発表しました。

続いて、今回初めて新聞社様から発表して頂けることになり、幹事社山新オフセット(株)取締役印刷部長/高橋様より、東日本大震災から2年を経て「緊急対策/ソフト・ハード両面の備え万全に」と題し、震災時の対応、震災を教訓に導入された非常用発電機、安否確認システム、配送車情報管理システムの説明や緊急時新聞発行援助協定などについて発表して頂きました。

震災から2年6カ月が経過し、当時の状況が記憶から薄れていくなか、今後に生かしていくことの重要性を再認識することが出来、また新聞社同士が連携を強化していると感じる発表でした。

次に、当社研究開発本部総合研究所主任研究員/川島より「新聞ブランケットの品質調査」岩沼工場技術室技術調査役/伊藤より「ペースター時のトラブルについて」の発表と、盛りだくさんの内容となりました。

活発な情報交換

当社製品の使用状況報告では、事前アンケートを基に各新聞社様から、当社品の使用状況を発表して頂き、質問に対し岩沼工場、新聞営業部、東北営業支社各担当者から回答する形で進



行。中でもシワに関する報告では、当社への質問以外に他の新聞社様での工夫、対応をしているのかなど、新聞社同士で情報を活発に交換する場面も見られました。

また、新聞社様から当社品質に対し率直なご意見をお聞きすることが出来、品質の安定、向上を目指す上でも貴重な情報交換の場となりました。

最後に参加された新聞社様の皆様のご多大なるご協力に感謝すると共に、幹事社としてご尽力頂きました山形新聞社様に厚くお礼申し上げます。今回で6回目の開催を迎えましたが、まだまだ歴史の浅い会議です。今後も意見交換の場として継続し、より有効な会議にして行きたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

開催日/2013年9月13日(金)
参加社(50音順)/秋田魁新報社、岩手日報社、河北新報社、デーリー東北新聞社、東奥日報社、新潟日報社、福島民友新聞社、ミノリ郡山工場、山形新聞社
(新聞社23名、当社23名、計46名)

かわら版 NIPPON 2013年を振り返る

KAWARABAN-NIPPON LOOK BACK 2013

1月

安倍首相が石巻工場に来場

1月12日、安倍首相の他首相官邸・復興庁・経済産業省・宮城県・石巻市の関係者が被災地視察のため、石巻工場に来場。芳賀社長から被災状況、復興過程などの説明を受け、N6マシンを視察されました。



2月

石巻工場専用線再開

2月14日、震災により寸断されていた石巻工場構内へのコンテナ引込線が復旧しました。これにより、震災前と同様に工場から直接全国各地へ製品の安定・大量輸送が可能になりました。



3月

本社が御茶ノ水ソラシティへ移転

3月25日、日本製紙本社が竹橋から御茶ノ水ソラシティへ移転しました。免震構造やLED照明が採用されたビルで、防災面・環境面に配慮されており、JR、東京メトロ、都営地下鉄など複数路線からのアクセスが可能で利便性が上がりました。



4月

日本製紙として新たな一歩

4月1日、日本製紙と日本製紙グループ本社が合併し「日本製紙」を存続会社として新たな一歩を踏み出しました。

CNF事業推進室を新設

セルロースナノファイバー（CNF）は木材繊維を高度にナノ化（微細化）したバイオマス素材で、高強度高弾性、高いガスバリア性などの特長を持ち、樹脂補強材、増粘剤、バリア性包材などへの展開が期待出来ます。昨年10月岩国工場内に実証生産設備が完成し、CNFを量産化するための技術開発や用途開発を加速させています。

6月

エネルギー事業本部を新設

2013年には小松島・大竹工場での太陽光、八代工場でのバイオマス、富士工場鈴川での火力といった新規電力事業への取り組みが決定し、操業へ向けて準備を進めています。

7月

都市対抗野球大会 初のベスト8

第84回都市対抗野球大会で、当社石巻硬式野球部が3年ぶり2度目の本戦出場で、初のベスト8入りを果たしました。準々決勝のJR東日本戦では惜しくも敗れたものの3戦通じて大観衆のスタンドは大いに盛り上がりました。



仙台広告賞にて大賞を受賞

第43回仙台広告賞新聞部門において「石巻工場N6マシン再稼働のお知らせ」が大賞を受賞し、7月2日に受賞式が行われました。操業スタッフが手にする紙に「復興への願いを込めたこの紙に、たくさんの希望が描かれますように」と思いを込めた広告です。



8月

北海道企業対抗ゴルフ大会 団体準優勝

8月20日、ツキサップゴルフクラブで日経・TVh杯北海道企業対抗ゴルフ大会が行われました。雷雨で中断になる厳しい環境の中、見事に団体戦準優勝を成し遂げました。

(当社メンバー／工藤、森田、谷口、安田)



9月

2020年東京五輪開催決定

9月8日早朝、イスタンブール、マドリードとの3都市による最終選考の結果、56年ぶりとなる東京での夏季五輪の開催が決定。新聞各紙も号外を発行し、その喜びを伝えました。

10月

2014年4月から消費税8%へ引き上げが決定

相沢晋投手が楽天からドラフト8位で指名

10月24日、プロ野球ドラフト会議にて当社石巻硬式野球部の相沢晋コーチ兼任投手(26)が東北楽天ゴールデンイーグルスから8位指名を受けました。入団後の背番号は「62」、持ち味は右打者の内角へのシュート。活躍が期待されます。

12月

日本製紙クレインズが全日本選手権で優勝

12月1日、第81回全日本アイスホッケー選手権大会決勝戦が行われ、日本製紙クレインズは王子イーグルスに5-4で勝利し、2大会ぶり6度目の優勝を果たしました。

